TECHVAN

Power Apps

DX推進が上手くいかない原因とは？

Power Apps導入を成功させる5つのポイント

© 2023 TechVan co., Ltd.

はじめに

「2025年の崖」という言葉が、経済産業省が発表したDXレポート※に記載されたのは、2018年のことです。2025年までにDXを実現しないと大きな経済損失が生まれるというその警鐘は、大きなインパクトがありました。それをきっかけに多くの企業がDX推進に取り組むようになり、デジタル技術の活用は一気に広まってきています。
しかし、DXを推進したくてもなかなかうまく進まないという企業も多いでしょう。
本資料では、システム内製化を実現するローコード開発ツール Power Apps を導入してDXを実現し、生産性向上につなげた企業の事例を紹介しています。ぜひ、参考にしてみてください。

※出典：DXレポート-経済産業省
www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_transformation/pdf/20180907_01.pdf

CONTENS

進む社内のITソリューション導入 2
お仕着せのサービスではなく、社内にあったものが求められる傾向に 3
Power Apps があれば自社に合ったシステムが作れる 4

Part.1 PowerApps 導入・運用を成功させるテクバンのサービス
自社に応じたITソリューション導入を実現したい場合 6
システム運用のための人材、スキルが足りない場合 7
Part.2 PowerApps 導入の事前準備　5つのポイント
ポイント1　自分たちだけでやらない 9
ポイント2　完璧を求めない 10
ポイント3　トライ＆エラーを繰り返す 11
ポイント4　属人化に陥らないようにする 12
ポイント5　効果測定を行う 13
Part.3 事前準備で成功した3つの事例
Case.1 ITに詳しい社員がいないから導入を諦めていたけれど 15
Case.2 導入後の効果検証を実施。修正ができるように伴走支援を活用 16
Case.3 組織横断でプロジェクトを推進！導入後の運用体制まで事前準備 17

© 2023 TechVan co., Ltd.

進む企業でのITソリューション導入とその先にあるもの

デジタル化の先のDXへ

いま、多くの企業は人材不足に悩み、生産性の向上、効率化に取り組んでいます。その一環として、ITソリューションの導入、IT化が積極的に進められているのですが、ここで多くの課題が生じています。
社内のITをつかさどる情報システム部門の負担が増してしまう、せっかく導入したソリューションが活用されていない、導入したものの思うような成果が上がらない…。
様々な要因がありますが、本来の目的は「IT化」ではありません。生産性の向上や効率化は目的ではなく、本当の目的は「DX(デジタルトランスフォーメーション)」、つまり「デジタル技術を活用することで、製品やサービスの変革を実現し、優位性を確立すること」、デジタル技術を活かした会社の価値創造の実現です。ITソリューションの導入はその手段に過ぎません。

© 2023 TechVan co., Ltd.

Case.1
ITに詳しい社員がいないから導入を諦めていたけれど、導入支援の活用で本当に欲しいシステムが導入できた

業種：運送会社　企業規模：約830人

1都3県を中心とした関東エリアの輸送サービスを展開するA社では、これまで勤怠管理、残業の管理、給与計算などのほとんどを Excel を利用した手入力で行ってきました。
タイムカードは不正確認や再入力の手間も大きく、総務・経理の負担軽減のために、「勤怠情報→残業管理→給与計算」まで一気通貫でできる勤怠管理システムの導入を検討しましたが、しっくり来るものがありませんでした。
Power Apps で自社に合うアプリを作成しようにも、社内にはITに詳しい者がいないため、テクバンの導入支援サービスを利用することにしました。

導入効果

- **テクバンの専門家のサポートもあり、残業時間の自動計算まで行う勤怠管理アプリを開発**
- **給与計算システムへの連携も実現し、業務を効率化**
- **今後は、運行管理アプリも開発し、勤怠管理アプリとも連動予定**

© 2023 TechVan co., Ltd.